

佐賀県教育センター

# 論文表記上の留意点 (語例集)

平成22年度改定常用漢字表対応

## 1 表記上の注意

### (1) 漢字，仮名の表記

漢字があるものは、漢字に直す。ただし、原則として常用漢字表にない読み方をするもの及び常用漢字表にないものについては、仮名で表記する。

また、「学習指導要領(平成10年12月)」「学習指導要領解説総則編」の記述を参考にする。

※ 留意する表記や用語（現行の小・中・高等学校の『学習指導要領』や『学習指導要領解説』から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒（×児童・生徒）	（×児童，生徒）	デジタル化
コミュニケーション	ハードウェア	ソフトウェア	レクリエーション	ボランティア

### (2) 「・」と「,」の表記の違い

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

意図的・計画的	横断的・総合的	合科的・関連的	体験的・問題解決的な学習	基礎(的)・基本(的)
興味・関心	作業的・体験的	能力・適性	国家・社会	健康・安全
改善・克服	選択・設定	調べ活動・学習	役割・立場	教材・教具
教育内容・方法	自主的・主体的	把握・分析	組織的・計画的	施設・設備
原理・法則	家族・家庭	実践的・体験的	家族・福祉	知・徳・体
技術・技能	産業・経済	発展・変化	編成・実施	観察・実験・実習
-----				
主体的，創造的	目的，目標	計画的，発展的	計画的，継続的	計画，展開
系統的，発展的	自主的，自発的な学習	主体的，意欲的	自主的，自律的	公正，公平
目標，内容	指導目標，指導内容	勤労観，職業観	主体的，自立的	組織的，継続的

\* 上記の表現については、原則である。したがって、前後の文章によって判断する。

### (3) 句読点の使用

- ・ 適切に句読点を使用する。（「,」ではなく「,」）
- ・ 特に、接続詞の後には、読点を打つ。  
例 「また～」→「また，～」                      「そして～」→「そして，～」
- ・ 長い文については、句点を打ち、幾つかの文に分ける。

### (4) 数詞の扱い

- ・ 序数として使う場合は、算用数字（1，2，3・・・）とする。
- ・ 慣用句として使う場合は、漢数字とする。（一人一人，自分一人，一斉，二人三脚，など）
- ・ 1桁の数字は全角，2桁以上の数字は半角で表記する。（3人，25分，100メートルなど）

### (5) その他

「話し言葉」調の記述ではなく、「書き言葉」として記述する。（ただし、児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない。

## 2 研究紀要のまとめ方と記入例

### (1) 項目、タイトル、書き出しなど

項目の記号は、必要に応じて下記の使用順序で用いる。

大項目	→	次項目	→	(順次下位項目が必要な場合→)	
1 (全角)		(1) (半角)		ア (全角)	(ア) (半角)
2		(2)		イ	(イ)
3		(3)		ウ	(ウ)
				a (全角)	(a) (半角)
				b	(b)
				c	(c)

[文章の中で項目分けが必要な場合は、①, ②, ③, または i, ii, iii等を使用する。]

#### 項目 1 及び(1)まではゴシック体で記入 (原則)

1		研	究	の	～					
(1)		研	究	の	～					
		ア	研	究	の	～				
		(ア)	研	究	の	～				
		a	研	究	の	～				
		(a)	研	究	の	～				
(a)	←									

\* 番号等の付け方は、左の例に準ずる。

\* そのページの項目が (a) などの下位項目しかないときは、左詰にする場合もある。

### (2) ワードソフトの設定

ア 研究計画書, 研究紀要などの文書は, 特に指定がない限り, 次のように様式設定をする。

- ・ サイズ…A 4判用紙, 縦使い, 横書き
- ・ 段組…1 段組
- ・ スタイル…46文字×42行(1932字)
- ・ 字体…一太郎, ワードともに10.5ポイント, MS明朝体

ただし, 大項目や強調したい文字は10.5ポイントMSゴシック体

図や表中の文字は縮小してもよいが, 最小8ポイントとする。

- ・ マージン…上20mm, 下25mm, 左右ともに18mm

イ 文字詰め初期設定

- ・ 一太郎の場合

ファイル→文書スタイル→スタイル→体裁を開き, 「和文体裁」の中の「禁則処理」, 「追い込み」, 「括弧類の重なり処理」にチェックを入れる。(次ページ図1参照)

- ・ ワードの場合

ツール→オプション→文字体裁を開き, 「カーニング」の「半角英字と区切り文字」及び「文字間隔の調整」の「句読点のみを詰める」にチェックを入れる。(次ページ図2参照)

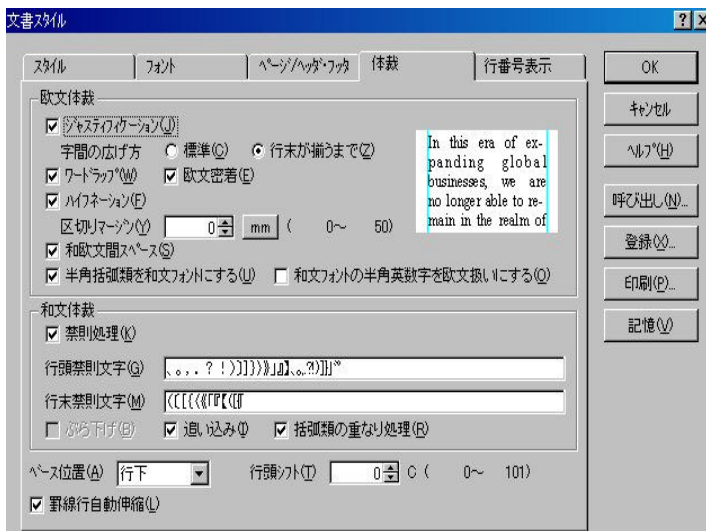


図1 一太郎設定画面

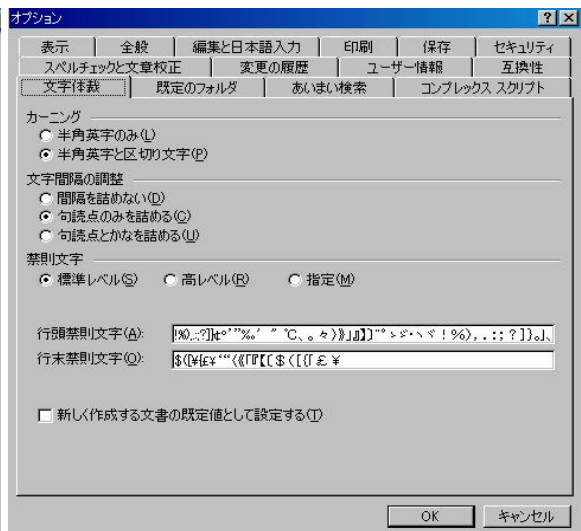


図2 ワード設定画面

(3) 図や表の挿入

図や表などの掲載については、下記のとおりとする。また、タイトル名はゴシック体とする。

図や写真の場合……図や写真の下に(センタリング) 表の場合……表の上に(センタリング)

表1 ■タイトル			
(図) 絵, 地図, グラフ 構造図など 図1 ■タイトル	(写真) 写真1 ■タイトル	(資料) 児童の感想など, 写真, 図, 表でないもの 資料1 ■タイトル	(表) 罫線に囲まれたもの 指導計画(過程)なども

※ センタリングし、全角1文字分空ける。(■は全角スペースを表す)

(4) 引用の仕方

ア 引用文の用い方

文章中の該当箇所の右肩に<sup>(1)</sup>, <sup>(2)</sup> (上付1/4倍) の通し番号で示す。

<例> ……であるが、梶田叡一は、「○○○……」<sup>(1)</sup>と述べている。

巻末の引用文献欄には、右肩に示した番号を最初に示すことで、引用した書籍や紀要と対応させる。

イ 引用文には、「」の引用記号を用いる。

語句を省略する場合は、「…」(3点リーダー)を2文字分入れる。→「……」

引用文中に「」の記述がある場合は、『』に置き換える。(「○○『○○』○○」)

ウ 長い引用の場合は別の段落にし、左右を1文字分空けておく。

エ 間接引用では、原文の内容を的確に要約して書き直す。

原文がいろいろと解釈される場合は、直接引用の方がよい。直接引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し、そのまま記入する。

<例> 「……<sup>ママ</sup>○○……」(○○は誤植の部分を表す)

(5) 引用及び参考文献の書き表し方

ア 著者名, 書籍名, 発行年, 出版社名(引用の場合はページ数も)の順で書く。

- イ 引用ページは、そのページのみ場合はp. 7、複数ページの場合はpp. 14-17のように書く。pと-（ハイフン）、.（ピリオド）は半角とする。
- ウ 編集した人、著作し編集した人についても、「〇〇編」「〇〇編著」と正確に示す。
- エ 書籍名には『 』を付ける。  
論文の場合は「 」, その論文集（雑誌名）は『 』と併記する。
- オ 発行年は著作物に書かれている表記を用いる。（西暦なら西暦、元号なら元号）  
西暦の場合は、半角数字とする。  
元号の場合は、平成9年までは全角数字、10年以降は半角数字とする。
- カ 引用文献の記述例

《引用文献》

(1) ■高浦■勝義編著■『総合学習の理論』■1997年■黎明書房■pp.142-144 （または、p.142）

(2) ■奈須■正裕■■■■『単元を立ち上げる三つの方法』『総合的学習を創る』■1999年10月号  
明治図書■p.70

《参考文献》

・ ■高浦■勝義編著■『総合学習の理論』■1997年■黎明書房

1行で書けない場合は、  
2行にまたがってよい。

書名の開始位置をそろえる。

### 3 その他、表記上の注意

- ・ ■項目を表す番号、アルファベット、記号(○、・など)の後は1マス空け、2行目以降の文頭が1マス出るようにする。(この項の文頭参照、■はスペースを表す。)
- ・ グラフは、色をモノクロにしパターンを入れて作成する。(エクセル作成のものがよい。)
- ・ 文中の2桁以上の半角数字や半角英数文字は、初期設定をし直さないと、半角にしたときに英数フォント(centuryやTimes New Roman)に自動変換する場合があるのでMS明朝体にする。  
悪い例… PISA 学力調査, 2006年, ALT, 45分授業など
- ・ 英文字を使用する場合は、次のような表記にする。(原則)  
英文や単語を書く場合は、語頭・文頭だけ大文字を使った半角明朝体…Web, “What's this?” など  
単語の頭文字を組み合わせる意味を成すものは、全て大文字の全角明朝体…ALT, TT, ICTなど
- ・ 英文を入れる場合は、カギ括弧(「〇〇」)ではなく、quotation mark (“〇〇”) でくくる。
- ・ 動詞として漢字表記をするものも、補助用言として使う場合は仮名表記とする。  
<例> [お菓子を頂く・発表していただく] [資料を下さい・お座りください] [資料が欲しい・発表してほしい]
- ・ 網掛けは、濃淡に注意する。
- ・ 「 」に文章が続く場合は、句点(。)を付けない。ただし、「 」内に複数の文章がある場合は、最後の文より前の文には句点を付ける。  
<例>  
……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」(「 」の後ろに文章が続かないので、句点を付ける。)  
……事前のアンケートの中でA児は、「どう接していいかわからない」と答えていた。(「 」の後ろに文章が続くので、句点を付けない。)  
……B児は、「ピーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まっていきたいだ」とつぶやいていた。(「 」に複数の文章があるときは、最後の文だけ句点を付けない。)
- ・ 読点(、)ではなく、カンマ(,)を使用する。
- ・ その他、センター論文表記上の注意に準じる。

4 研究紀要等の表記について（語例集）

\* 表中の△は、避けるべき表現、※（ゴシック体）は22年度に加わった新常用漢字の使い方によるものであることを指す。

（平成16年度作成 『佐賀県 文書・法令事務の手引き（平成16年3月改訂）』より要約抜粋，一部改訂）

見出し	表記	備考	あつらえる	あつらえる	△詠える
			あて	※宛	各学校宛て
			あてる	当てる	宛名，宛先 日光に当てる 当て外れ 保安要員に充てる
			あと	後	後で～する 苦心の跡，跡目
			あと	※痕	※傷痕
			あまり	余り	余りが出る 余り良くない ～した余り 余りにも
			あやしい	あやしい	怪しい人影
			あやしい	※妖しい	※妖しい魅力
			あらかじめ	あらかじめ	△予め
			あらし	※嵐	
			あらためて	改めて	改めて～する
			あらゆる	あらゆる	△所有
			あらわす	表す	言葉に表す
				現す	姿を現す
				著す	書物を著す
			あらわれる	表れる	喜びの表れ
				現れる	太陽が現れる
			ありか	在りか	△在り処，在処
			ありかた	在り方	
			ありがたい	有り難い	有り難がる 有り難み
			ありがとう	ありがとう	
			ある（連体詞）	ある	ある日
			ある（動詞）	ある	そこに問題がある
				有る	財源が有る
					有り・無し
				在る	日本はアジアの東に在る
				～（て）ある	書いてある
			あるいは	あるいは	△或いは
			あわせて（副詞）	併せて	併せてお願いする
			あわせて（接続詞）	あわせて	あわせて，～
【あ】					
アイ	※曖	※曖昧			
アイ	※挨	※挨拶			
あい	※藍	※藍染め，藍色			
あいだから	間柄				
あいにく	あいにく	△生憎			
あいまい	※曖昧				
あいまって	あいまって	△相俟って			
あえて	あえて	あえて～する			
あかす	飽かす	暇に飽かして			
あきらめる	※諦める	※諦観			
あくまで	飽くまで	飽くまで闘う			
あくる	明くる	明くる日			
あげく	挙げ句	～した挙げ句			
あける	明ける	夜が明ける			
	空ける	時間を空ける			
	開ける	窓を開ける			
あげる	上げる	品物を上げる			
		物価が上がる			
	揚げる	船荷を揚げる			
		歓声が揚がる			
	挙げる	一例を挙げて			
		国を挙げて			
	～（て）あげる	図書館を貸してあげる			
あご	※顎				
あこがれる	※憧れる				
あざける	※嘲る				
あたかも	あたかも	△恰も			
あたり	辺り	辺り一面			
あたりまえ	当たり前				
あたる	当たる	予報が当たる			
		～に当たり，			
		～に当たって，			
あっせん	あっせん	△斡旋			
		周旋，世話が適當			

【い】			いっそう	一層	一層の努力
イ	※畏	※畏敬, 畏怖	いったん	いったん	△一旦
イ	※萎	※萎縮			いったん休憩する
イ	※椅	※椅子	いっぺんに	一遍に	一遍に～する
イ	※梟	※語梟	いばら	※茨	※茨城
いう	言う	彼の言うこと	いまさら	今更	
	～いう	～という場合	いまだ	いまだ	△未だ
いえども	いえども	[～でも, ～であつても]	いやしくも	いやしくも	△苟も
いえる	※癒える	※癒す	いる	入る	気に入る
いき	※粹				手に入れる
いきおい	勢い	勢いが悪い		要る	保証人が要る
		勢い～する		いる	ここに関係者がいる
いけい	※畏敬	畏怖, 畏れ			～している
いく	行く	学校へ行く	いる	※煎る	※煎茶
	… (て) いく	実施していく	いろいろ	いろいろ	△色々
いく	※逝く		いわば	言わば	
いくつ	幾つ		いわゆる	いわゆる	△所謂
いくら	幾ら	幾ら考えても	いわんや	いわんや	△況や
		全部で幾らか			「いうまでもなく」が適當
いしゆく	※萎縮		イン	※咽	※咽喉, 咽頭
いす	※椅子		イン	※淫	※淫行, 淫ら
いずれ	いずれ	△何れ	【う】		
いだく	抱く	△懐く	うかがう	うかがう	△窺う
いたす	致す	致し方ない			成長の跡がうかがえる
	～いたす	繁栄を致した原因	うかがう (聞く, 尋ねる, 訪問するの謙譲語)	伺う	10時に伺います
いだす	いだす	御案内いたします			
いたずら	いたずら	見いだす	うす	※臼	※臼齒, 脱臼
		いたずらに時間を	うた	※唄	※長唄, 小唄
		費やす	うち	内	部屋の内
いただく	頂く	御返事を頂きたい		うち	そのうち
	～(て)いただく	報告していただく			～のうち
いたって	至って	至って～である			知らないうちに
いたる	至る	東京に至る	うちあわせ	打合せ	
		至る所に	うちわけ	内訳	
いちじ	一時	一時の出来心	ウツ	※鬱	※憂鬱, 鬱蒼
いちず	いちず	いちずに思う	うながす	促す	
		△一途	うやうやしい	恭しい	
いちづける	位置付ける	位置づける	うる	得る	得るところ
いっこう	一向	一向に差し支えない	うらやましい	※羨ましい	※羨望
いっさい	一切	一切関知しない	うらやむ	※羨む	
いっしょ	一緒	一緒に行く	うんぬん	うんぬん	△云々
いっせい	一斉	一斉検査			

【え】			おぼれる	※溺れる	
えさ	※餌	※餌食(えじき)	おもしろい	面白い	
える	得る	許可を得る やむを得ない	おもに	主に	
エン	※怨	※怨恨, 怨念	おもむき	趣	
エン	※媛	※才媛, 愛媛	おもむく	赴く	任地に赴く
エン	※艶	※妖艶	おもわく	思わく	△思惑
【お】			およそ	およそ	△凡そ
お(接頭語)	お	お礼	および(接続詞)	及び	A及びB
		お願いします	およびす	及ぼす	
おいて	おいて	△於いて ～において	おり	折	その折
			おりから	折から	△折柄
オウ	※旺	※旺盛	おれ	※俺	
おおいに	大いに	大いに利用する	おる	おる	△居る ～しております
おおかた	大方	大方の意見 大方まとまる	おわり	終わり	△了
			【か】		
おおぜい	大勢		か	か	3か月(1, 2か月)
おおむね	おおむね	△概ね		箇	2, 3箇所
おおよそ	おおよそ	△大凡 おおよそ2か月くらい	かじょうがき	箇条書	
おか	※岡	※福岡, 岡山	か	※鹿	※鹿の子, 鹿児島
おかげ	おかげ	△お蔭 おかげで～	カ	※苛	※苛酷, 苛烈
			ガ	※牙	※歯牙, 牙城
オク	※臆	※臆病, 臆する	かい	かい	△甲斐 ～したかいがあつて
おこない	行い	△行ない	カイ	※楷	※楷書
おこなう	行う	△行なう 調査を行った	カイ	※潰	※潰瘍, 潰す
			ガイ	※骸	※形骸化, 死骸
おさめる	収める	目録に収める	ガイ	※崖	※断崖
	納める	注文の品を納める	ガイ	※蓋	※頭蓋骨
	治める	領地を治める	ガイ	※骸	※形骸化, 死骸
	修める	学を修める	がいして	概して	概して良好である
おそらく	恐らく		かえって	かえって	△却って
おそれ	おそれ	～のおそれがある			かえって不便になる
おそれ	※畏れ	※畏れ多い言葉	かえりみる	顧みる	過去を顧みる
おとさた	※音沙汰	「俚り, 音」が適當		省みる	自らを省みる
おとな	大人		かえる	変える	観点を変える
おのおの	各, 各々			換える	名義を書き換える
おのずから	おのずから	△自ら おのずから理解できる		替える	振り替える
おびたしい	おびたしい	△夥しい	かかる	かかる	△斯る
おぼしめし	おぼしめし	△思召し			「このよう」が適當
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない	かかる	かかる	△罹る

かかわり	※関わり	病気にかかる	かぶき	※歌舞伎	
かかわる	※関わる	△～にも関わらず	かま	※釜	
かき	※柿		かま	※鎌	※鎌倉時代
かぎ	※鍵	※鍵穴	かまう	構う	構わない
かく	※描く	※図形を描く			費用に構わず
かぐ	※嗅ぐ	※嗅覚		～(て)もかまわない	お構いなく
ガク	※顎	※顎関節	がまん	我慢	外出してもかまわない
かくせい	※覚醒		かめ	※亀	※亀裂
かけ	※賭け	※賭ける	かもしれない	～かもしれない	△かも知れない
がけ	※崖	※断崖、崖下			間違いかもしれない
かける	掛ける	迷惑を掛ける	からめる	※絡める	
		保険を掛ける	かろうじて	辛うじて	
	懸ける	優勝を懸ける	かわら	※瓦	※瓦解、瓦屋根
		賞金を懸ける	カン	※韓	※韓国
	架ける	橋を架ける	ガン	※玩	※愛玩動物、玩具
		電線を架ける	かんがみる	※鑑みる	
かご	※籠		かんする	関する	～に関する～
かこく	※苛酷	*過酷	かんじん	肝心	肝心(肝腎)かなめ
かする	課する	税を課する		※肝腎	肝心(肝腎)な事柄
	科する	刑を科する	【き】		
かたがた	かたがた	△旁々	キ	※伎	※歌舞伎
		お礼かたがた	キ	※亀	※亀裂
かたづけ	片付け		キ	※毀	※毀損、毀誉
かたづける	片付ける		キ	※畿	※近畿、畿内
かたわら	傍ら	歩道の傍ら	きがかり	気掛かり	
がち(接尾語)	～がち	～しがち	きぐ	※危惧	
		～ありがち	きする	期する	～を期して
かつ	かつ	△且つ	きそん	※毀損	
カツ	※葛	※葛藤	きたす	来す	支障を来す
かっきてき	画期的		きたる	来る	来る○月○日
かっこ	括弧		きづき(きづく)	気付き(気付く)	△気づき(気づく)
かつて	かつて	△嘗て	きば	※牙	
かつて	勝手	勝手が違う	きはく	希薄	△稀薄
		勝手次第	きふ	寄附	
かつとう	※葛藤	※葛湯	キュウ	※臼	※臼齒、脱臼
かっぱつ	活発		キュウ	※嗅	※嗅覚
かな	仮名	片仮名、平仮名	きる	切る	
		仮名遣い	きる	※斬る	※世相を斬る
かなう	かなう	△叶う、敵う	きわまる	窮まる	進退窮まる
かなた	かなた	△彼方			窮まりなき宇宙
かなめ	※要			極まる	不都合極まる言動

きわめて	極めて	見極める	ゲキ	※隙	※間隙
きわめる	究める	極めて大きい	けた	※桁	※3桁, 橋桁
キン	※巾	学を究める	けっこう	結構	結構な品物
キン	※僅	※頭巾, 雑巾			公表しなくても結構です
キン	※錦	※僅差		けっこう	けっこう役に立つ
【く】		※錦秋	ける	※蹴る	
グ	※惧	※危惧	ケン	※拳	※拳銃, 拳法
くし	※串	※串焼き	ケン	※鍵	※鍵盤
くず	※葛	※葛湯	ゲン	※舷	※舷側, 右舷
クツ	※窟	※洞窟, 巢窟	【こ】		
ください	下さい	資料を下さい	ご(接頭語)	御～	御案内
	ください	御指導ください		ご～	御調査
	～(て)ください	問題を話してください			ごあいさつ
くだす	下す	判決を下す			ごべんたつ
くま	※熊	※熊本	コ	※股	(仮名書きの場合)
くみあわせる	組み合わせる		コ	※虎	※股関節, 股間
くみあわせ(名詞)	組合せ	組合せ方	コ	※鋼	※虎穴
くみたてる	組み立てる		ごい	※語彙	※禁鋼
くみたて(名詞)	組立て	組立て方	コウ	※勾	※勾配
くむ	酌む	酒を酌む	こう	※乞う	※命乞い
		事情を酌む	ゴウ	※傲	※傲慢
くらい	位	位する	こうむる	被る	
		位取り	こうよう	高揚	損害を被る
	～くらい(ぐらい)	どのくらい	こえる	越える	△昂揚
くらべる	比べる	△較べる			山を越える
くりかえす	繰り返す	くり返す		超える	年を越す
くる	来る	人が来る			100万円を超える額
	～(て)くる	寒くなってくる	ごく	ごく	1,000万人を越す人口
くれぐれも	くれぐれも	△呉々も			△極
くれる	くれる	△呉れる	こころがけ	心掛け	ごく新しい
	～(て)くれる	資料をくれる	ごぞんじ	御存じ	
くろうと	玄人	援助してくれる	こたえ(名詞)	答え	△御存知
【け】			こたえる	答える	御存じですか
げ(接尾語)	～げ	△～気	こたえる	※応える	質問に答える
		惜しげもなく			※要望に応える
ケイ	※詣	※参詣	こと	事	(～に応じる)
ケイ	※憬	※憧憬			事を起こす
ケイ	※稽	※滑稽, 稽古	ことがら	～こと	事に当たる
けいもう	啓もう	△啓蒙		事柄	許しなことがある
		「啓発」が適当			次の事柄について

ごとく	ごとく	△如く 「ように」が適當	さしず さしずめ	指図 さしずめ	△差し詰め さしずめ計画どおりに実施する
ことさら	殊更	殊更～する	さしだす	差し出す	紹介状を差し出す
ことなる	異なる	意見が異なる ～を異にする	さしだしにん	差出人	
ことに	殊に	殊に優れている	さしつかえる	差し支える	
ことのほか	殊の外		さしつかわす	差し遣わす	
こども	子ども	△子供, こども	さすがに	さすがに	△流石に
ことわる	断る	断りの手紙	ざせつ	※挫折	※頓挫
このごに～	この期に～	この期に及んで	さた	※沙汰	※沙汰のあり次第
こぶし	※拳				※音沙汰
ごぶさた	※御無沙汰				※御無沙汰
こま	※駒	※持ち駒	サツ	※刹	※古刹, 名刹
こむ	※混む	電車が混む	サツ	※拶	※挨拶
	込む	負けが込む	さっきゅう	早急	早急に手配する
こもる	※籠もる		さっそく	早速	早速送付する
ころ	※頃	※日頃 ※頃合い, 3月頃	さばく	さばく	△捌く 品物をさばく
コン	※痕	※痕跡, 血痕		裁く	罪人を裁く
こんでい	根底		さほど	さほど	さほど重要でない
コンピュータ	コンピュータ	△コンピューター	さまざま	様々	
【さ】			さらい～	再来～	再来週, 再来月, 再来年
サ	※沙	※沙汰, 御無沙汰	さらに(副詞)	更に	更に検討する
ザ	※挫	※挫折, 捻挫	さらに(接続詞)	さらに	さらに, ～
サイ	※采	※喝采, 采配	さる	去る	去るに当たって
サイ	※塞	※要塞			去る○日
さい	※埼	※埼玉, 神埼	さわやか	※爽やか	
さいわい	幸い	幸いだ 幸い間に合った	さわる	障る	気に障る 差し障る
		※大阪		触る	展示品に触る 手触りがよい
さか	※阪				※斬新, 斬殺
さかのぼる	※遡る		ザン	※斬	
さき	先	先に立つ 先取り, 先んずる	【し】		
		※鉄柵	シ	※恣	※恣意的
サク	※柵		シ	※摯	※真摯
さげすむ	※蔑む		ジ	※餌	※好餌, 食餌
さきほど	先ほど	△先程	しあわせ	幸せ	
ささいな	ささいな	△些細な	しいて	強いて	
ささげる	ささげる	△捧げる	しか	※鹿	
さしあげる	差し上げる		しかた	仕方	仕方がない
さしあたり	差し当たり		しかる	※叱る	※叱責, 叱咤
さしえ	挿絵		しくみ	仕組み	機械の仕組み
さしさわり	差し障り				

しげき	刺激		しんしょく	侵食	△侵蝕
しごく	至極	至極もつともである	しんせき	※親戚	
しさい	子細	△仔細	じんだい	甚大	被害甚大
		子細があつて	じんもん	尋問	△訊問
しじゅう	始終	始終～する	【す】		
しだい	次第	式次第	ス	※須	※必須
		～する次第である	すいせん	推薦	
		次第に～する	ずいぶん	随分	随分早く着いた
したがう	従う	法律に従う	すえおき	据置	据置期間
したがって(接続詞)	したがって	△従って			据置貯金
		したがって、～	すえおく	据え置く	
シツ	※叱	※叱責	すき	※隙	※隙間
シツ	※嫉	※嫉妬	すぎる	過ぎる	期限が過ぎる
じつに	実に		すくなくとも	少なくとも	
しばしば	しばしば		すぐに	すぐに	△直に
しばらく	しばらく	△暫く	すぐれる	優れる	△勝れる
しぼる	絞る	手ぬぐいを絞る	すこし	少し	
		絞り染め	すすめる	進める	交渉を進める
	搾る	乳を搾る		勧める	入会を勧める
		搾り取る		薦める	候補者として薦める
しまつする	始末する	書類を始末する	すそ	※裾	※裾野
シミュレーション	シミュレーション	シミュレーション	ずつ	ずつ	1つずつ
しめきり	締切り	申し込みの締切り			少しずつ
		締切日	すでに	既に	既に完成している
しゃりょう	車両	△車輛	すなわち	すなわち	△即ち
シュ	※腫	※腫瘍	すべて	※全て	△総て
ジュ	※呪	※呪文, 呪縛	すみやかに	速やかに	速やかに実施する
シュウ	※羞	※羞恥心	すわる	座る	座り込む
シュウ	※袖	※領袖		据わる	目が据わる
シュウ	※蹴	※一蹴	【せ】		
ショウ	※懂	※懂憬	セイ	※凄	※凄惨, 凄絶
じゅうぶん	十分	△充分	セイ	※醒	※覚醒
シュン	※旬		せいとん	※整頓	
じょうず	上手		セキ	※脊	※脊髓, 脊柱
じょうぶ	丈夫	丈夫な体	セキ	※戚	※親戚
しり	※斥		セツ	※刹	※刹那
しりぞける	退ける	△斥ける	せっかく	せっかく	△折角
しろうと	素人		せつに	切に	切に祈る
ショク	※拭	※払拭, 拭う	ぜひ	是非	是非を論ずる
シン	※芯				是非お願いします
ジン	※腎臓, 肝腎		せん	栓	消火栓
しんし	※真摯		セン	※煎	※煎茶

セン	※羨	※羨望	たいがい	大概	大概大丈夫だろう
セン	※腺	※涙腺, 前立腺	たいした	大した	大したことはない
セン	※詮	※詮索, 所詮			大して参考にならない
セン	※箋	※処方箋, 便箋	だいじょうぶだ	大丈夫だ	もう大丈夫だ
ゼン	※膳	※配膳	たいせつに	大切に	
【そ】			たいそう	大層	大層明るい
ソ	※狙	※狙撃	だいたい	大体	大体よい
ソ	※遡	※遡る			大体のところは
ソ・ソウ	※曾(曾)	※曾祖父, 未曾有	たいてい	大抵	大抵のことは分かる
ソウ	※爽	※爽快			大抵雨になるだろう
ソウ	※瘦	※瘦身	たいとう	台頭	
ソウ	※踪	※失踪	だいぶ(ん)	大分	大分増えた
そう	沿う	意見に沿う	たいへん	大変	大変な人手
	添う	川沿いの家			大変努力する
		連れ添う	たえず	絶えず	絶えず行き来する
		付添い	たがいに	互いに	互いに励まし合う
そうごう	総合	△総合	たぐい	※類	
そうじて	総じて		たくさん	たくさん	△沢山
そうそうに	早々に		たけ	丈	身の丈
そうてい	装丁				思いの丈を述べる
そうとう	相当	部長に相当する	だけ	～だけ	調子だけである
		相当難しい	たしょう	多少	多少早くなる
そうにゆう	挿入		たずねる	尋ねる	由来を尋ねる
そうめい	聡明	「賢明, 賢い」が適当			尋ね人
ソク	※塞	※脳梗塞, 閉塞		訪ねる	知人を訪ねる
ソク	※捉	※捕捉			史跡を訪ねる
そち	措置		ただ	ただ	△唯, 只
そっせん	率先		ただし(接続詞)	ただし	△但し
そで	※袖	※半袖	ただちに	直ちに	
そまつな	粗末な		たち(接尾語)	～たち	△達
それ	それ	それぞれ, それら		※友達…熟語と	子どもたち
		それゆえ		して漢字	私たち
そろう	そろう	△揃う *品揃え	たちのく	立ち退く	立ち退き
ソン	※遜	※不遜, 謙遜	たちまち	たちまち	△忽ち
ぞんずる	存ずる	それがよいと存じます	たつ	断つ	退路を断つ
		御存じの～		絶つ	縁を絶つ
【た】					消息を絶つ
た	他	その他		裁つ	生地を裁つ
タ	※汰	※沙汰	たて	盾	△楯
ダ	※唾	※唾液, 唾棄	たとえば	例えば	
タイ	※堆	※堆積	たのもし	頼もしい	
タイ・ダイ	※戴	※戴冠・頂戴	たび	度	度重なる

	～たび	度々 このたび ～するたび			気を遣う 小遣い銭 仮名遣い 差し遣わす 折り紙付き 尾頭付き 顔つき, 目つき 体つき
たぶん	多分	多分～であろう	つかわす	遣わす	
たまわる	賜る		つき	～付き	
ため	ため	△為 ために ～のため			
だめ	駄目	駄目を押す	つぎ	次	次のとおり
ためす	試す	切れ味を試す			次々と
だれ	※誰		つく	付く	△附く
タン・ダン	※旦	※一旦, 旦那			利息が付く
タン	※綻	※破綻			味方に付く
【ち】					手紙が着く
チ	※緻	※緻密, 精緻		着く	船を岸に着ける
ちいさな	小さな			就く	職に就く
ちかごろ	※近頃				役に就ける
ちかづく	近付く	△近づく	つぐ	次ぐ	事件が相次ぐ
ちくいち	逐一	逐一報告する			取り次ぐ
ちなみに	ちなみに	△因みに	(とりつぎ)		取次, 取次店
ちなむ	ちなむ	△因む		継ぐ	跡を継ぐ
チュウ	※酎	※焼酎			引き継ぐ
チョウ	※貼	※貼付	(ひきつぎ)		引継
チョウ	※嘲	※自嘲		接ぐ	木を接ぐ
ちょうじり	※帳尻				接ぎ木
ちょうど	ちょうど	△丁度	つくる	作る	おもちゃを作る
チョコク	※抄	※進抄	つくる	造る	船を造る
ちよっと	ちよっと	△一寸	つくる	※創る	※新しい文化を創り出す
ちんでん	沈殿	△沈澱			*課題づくり
【つ】				つくり	*授業づくり
ツイ	※椎	※脊椎, 椎間板			○月○日付け
ついたち	一日 *12月1日	※月の始めの日という慣用句的扱い	づけ	～付け	日付
ついで	次いで		つける	付ける	条件を付ける
ついでに	ついでに	ついでに仕事も頼む			付け替える
ついては(接続詞)	ついては	△就いては	つごう	都合	関連付ける
ついに	ついに	ついでには, ~ △遂に			都合で
つかう	使う	ついに完成する	つたない	※拙い	都合○名
		機械を使う	つつしむ	慎む	身を慎む
		重油を使う	つづる	つづる	△綴る
	遣う	心を遣う			文をつづる

*ぶんしょつづり	*文書綴り	書類をつづり込む	てびき	手引き	手はずを整える
つど	都度	その都度	てもと	手元	△手許
つとめて	努めて	努めて早起きする	テン	※填	※充填, 補填
つとめる	努める	解決に努める	【と】		
		完成に努める	ト	※妬	※嫉妬
	勤める	会社に勤める	ト	※賭	※賭博, 賭場
	務める	議長を務める	トウ	※藤	※葛藤
		主役を務める	〜とう	〜等	「など」と読ませたいときは仮名
つとまる	※務まる		ドウ	※瞳	※瞳孔
つながる	つながる	△繋る	とうがい	当該	
つねに	常に		どうし	同士	児童同士
つば	※唾	※眉唾	どうじょう	同上	
つぶす	※潰す	※潰瘍	とうてい	到底	到底できない
つめ・つま	※爪	※生爪, 爪先	とうとう	とうとう	とうとう決定した
つもり	積もり	心積もり	とおり	通り	銀座通り, 一通り
		*見積り		〜を通して	
	つもり	そのつもりだ		〜とおり	次のとおりで
つや	※艶	※色艶			従来どおり
つる	※鶴	※千羽鶴	とかく	とかく	△兎角
【て】					とにかく
てあて	手当	手当を支給する			とにかかくにも
	手当て	傷の手当て	とき	時	時の記念日
テイ	※諦	※諦観, 諦念		〜とき	事故のときは連絡する
ていしょく	抵触				〜したときに
ていねい	丁寧		とく	解く	問題を解く
ておくれ	手遅れ				疑いが解ける
てがかり	手掛かり				会長の任を解かれる
でかける	出掛ける			溶く	絵の具を溶く
でき	出来	出来心, 出来事			地域社会に溶け込む
		出来上がる	とくに	特に	
		*出来上がり	どこ	どこ	△何処
		出来が良い	ところ	所	△処
〜でき	〜出来	上出来, 不出来		〜ところ	現在のところ差し支えない
デキ	※溺	※溺愛	ところが(接続詞)	ところが	
できる	できる	△出来る	ところで(接続詞)	ところで	
		利用できる	とじる	とじる	△綴じる
		できるだけ〜			紙をとじる
てぎわ	手際	手際がよい		閉じる	門を閉じる
てごろ	手頃	手頃な大きさ	とち	※析	
てだて	手立て	△手だて	とつぜん	突然	
てはず	手はず	△手筈	とても	とても	

ととのえる	整える	身辺を整える 調子を整える	とる	取る	資格を取る 連絡を取る
	調える	晴れ着を調える 費用を調える		採る	敵の卒業生を採る 会議で決を採る
とどめる	とどめる	△止める, 留める 記録にとどめる		執る	事務を執る 式を執り行う
とはいうものの	とはいうものの			捕る	生け捕る
とはいえ	とはいえ			撮る	捕り物 写真を撮る
とめる	止める 留める	息を止める ボタンを留める 留め置く, 書留 客を泊める	トン ドン どん・どんぶり	※頓 ※貪 ※井	※整頓, 無頓着 ※貪欲 ※牛井, 井飯
	泊める	共倒れ	【な】		
とも	共	共に(副詞) 共々(副詞) ~とともに ~するとともに 今後とも 両方とも △共	ナ ナ ない	※那 ※奈 ない	※刹那・旦那 ※奈良, 奈落 △無い 欠点がない 行かない 有り・無し 亡くなる 亡き人 △乃至 北ないし北東の風
ども(接尾語)	ども	私ども	ないし	亡い ないし	
ともだち	友達				
ともなう	伴う	~に伴って	なえる	※萎える	
とら	※虎	※虎穴	なお	なお	△尚, 猶 なお, ~ なおさら
とらえる	捕らえる	泥棒を捕らえる			箱の中, 括弧の中 長い道, 気が長い 末永く契る
とらえる	※捉える	※機会を捉える	なか ながい	中 長い 永い	なかなか現れない 半ばあきらめる △乍ら 歩きながら話す
とりあえず	取りあえず	△取り敢えず 取りあえず御報告まで	なかなか なかば ながら	なか ながい 永い	
とりあげる	取り上げる				
とりあつかい	取扱い		なごり	名残	
とりあつかいかた	取扱い方	取扱い方法	なさけ	情け	情けない
とりあつかう	取り扱う		なさし	名指し	
とりいれる	取り入れる		なされる	なされる	△成される
とりかかる	取り掛かる	仕事に取り掛かる	なし	※梨	※山梨, 梨園
とりくむ	取り組む		なす	なす	△為す なすすべもない
とりくみ(名詞)	取組				
とりくみかた	取り組み方		なぜ	なぜ	△何故
とりはからう	取り計らう				
とりまとめ	取りまとめ				
とりもどす	取り戻す				
とりやめ	取りやめ	△取り止め			

なぞ	※謎		のうり	脳裏	△脳裡
～など	～など	「とう」と読ませたいときは漢字	のがす	逃す	逃れる
ななめ	斜め		のける	のける	△除ける
なにとぞ	何とぞ	△何卒	のちほど	後ほど	後ほど連絡する
なにぶん	何分	何分よろしく	のっとる	のっとる	△則る
なべ	※鍋	※鍋料理			「基づく、従う、よる、」が適当
なみなみ	並々	並々ならぬ	のど	※喉	※喉頭、咽喉
ならう	倣う	前例に倣う	ののしる	※罵る	※罵倒
ならびに(接続詞)	並びに	(a及びb)並びに(c及びd)	のぼす	伸ばす	勢力を伸ばす
なりたつ	成り立つ				学力が伸びる
なりゆき	成り行き			延ばす	開会を延ばす
なる	成る	△為る			支払いが延び延びになる
		本表と付表とから成る	のべる	延べる	布団を延べる
	なる	1万円になる	のべる	※伸べる	救いの手を伸べる
		小さくなる	のむ	飲む	△呑む
なるべく	なるべく	なるべく早くする	のろう	※呪う	※呪文
なるほど	なるほど	△成程	【は】		
【に】			バ	※罵	※罵倒、罵声
におう	※匂う	※香水が匂う	はあく	把握	
におう	※臭う	※生ゴミが臭う	はいる	入る	
にぎわう	にぎわう		はがき	はがき	△葉書
にくい	憎い	△～憎い、～難しい	はがす	※剥がす	※剥ぐ
		実行しにくい	はかどる	はかどる	△捗る
		言にくい	はからずも	図らずも	
にじ	※虹		ばかり	～ばかり	こればかり
にしき	※錦				～するばかり
になう	担う	△荷う	はかる	図る	合理化を図る
		双肩に担う			解決を図る
にらむ	にらむ	△睨む		計る	時間を計る
		にらみ合わせる			計り知れない恩恵
にわか	にわか	△俄		測る	距離を測る
		にわかにならぬ			面積を測る
【ぬ】				量る	目方を量る
ぬぐう	※拭う				容積を量る
【ね】				謀る	暗殺を謀る
ねたむ	※妬む	※嫉妬		諮る	審議会に諮る
ねりなおす	練り直す		ハク	※剥	※剥奪、剥製
ねらい	※狙い	*授業や指導において「ねらい」と仮名表記	はぐくむ	※育む	
			ばくぜん	漠然	漠然とした
			ばくだい	ばくだい	△莫大
ネン	※捻	※捻挫、捻出	はさむ	挟む	挟み込む
【の】			はし	※箸	

はじめて	初めて	初めての経験	ひごと	日ごと	△日毎
はじめる	始める	会を始める	ひごろ	※日頃	
*はじめ	*始め	御用始め	ひざ	※膝	
	*初め	始めの言葉	ひじ	※肘	
はず	はず	初めまして	ひづけ	日付	
		△筈	ひっす	※必須	
		できるはずがない	ひとかたならぬ	一方ならぬ	
はすう	端数		ひとしお	ひとしお	
はずれる	外れる	町外れ, 外す	ひとしく	ひとしく	△斉しく
		踏み外す			銀ひとしく戴した
はたして	果たして	果たして～だ	ひとそろい	一そろい	△一揃
はち	※蜂	※蜜蜂	ひとたび	一たび	△一度
はつらつ	はつらつ	△浣刺	ひととお	一通り	
はで	派手		ひとまず	ひとまず	△一先ず
はなしあい(名詞)	話し合い	△話し合い	ひとみ	※瞳	
はなしあう(動詞)	話し合う	話し合った	ひとり	一人	一人っ子
		話し合いながら			一人一人
はなはだ	甚だ	甚だ大きい		1人	△一人ひとり
		甚だしい	※座敷として使う場合	独り	独り占め
はば	幅	△巾	ひとわたり	ひとわたり	△一渡り
はばかり	はばかり	△憚る	ひめ	※媛	※愛媛
はばむ	阻む		ひょうき	表記	表記の金額
はやい	早い	時期が早い			国語の表記
		矢継ぎ早		標記	標記のことについて
	速い	流れが速い	ひろがる	広がる	△広がる
		テンポが速い	ひんぱん	頻繁	
はやまる	早まる		【ふ】		
はやまる	※速まる		ふ	附	附則, 附属, 附帯
はらいもどし	払戻し	払戻金, 払戻証書			附置, 寄附
はらいもどす	払い戻す			付	付記, 付随, 付与
はる	張る	テントを張る			付録, 交付, 給付
はる	※貼る	シールを貼る	フ	※訃	※訃報
はれる	※腫れる	※腫らす	フ	※阜	※岐阜
ハン	※氾	※氾濫	ふう	風	洋風, 学者風の人
ハン	※汎	※汎用性		～ふう	こうふうに通る
ハン	※阪	※阪神, 京阪	ふえる	殖える	知らないふうを装う
ハン	※斑	※斑点		増える	財産が殖える
はんれい	凡例				人数が増える
【ひ】			ふく	※拭く	
ピ・ミ	※眉	※眉目, 眉間	ふさぐ	※塞ぐ	※塞がる
ひいては	ひいては	△延いては	ふさわしい	ふさわしい	△相応しい
ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす	ふじ	※藤	※藤色, 藤棚

ふじゅうぶん	不十分	△不充分		外	思いの外
ふた	※蓋	※火蓋, 頭蓋骨			*殊の外
ふたたび	再び		ぼく	僕	
ふだん	ふだん	△普段	ボク	※睦	※親睦, 和睦
		ふだん考えていること	ほころびる	※綻びる	
ふっしょく	※払拭	※拭く, 拭う	ほしい	欲しい	金が欲しい
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて			欲しがる
ふもと	※麓		※～してほしい (補助用言)	～してほしい	
ふりがな	振り仮名		ボツ	※勃	※勃発, 勃興
ふるう	振るう	腕を振るう	ほど	程	程遠い, 程なく
		事業が振るわない			身の程
	震う	声を震わせる		ほど	先ほど, 後ほど
		身震い			今朝ほど
	奮う	勇気を奮う		～ほど	少ないほどよい
		奮い立つ	ほとんど	ほとんど	△殆ど
	奮って	奮って参加してください	ほまれ	誉れ	
ふるって	触れ合う		ほんとう	本当	
ふれあう	触れる		【ま】		
ふれる	※振れる		マイ	※昧	※三昧, 曖昧
ふれり	雰囲気		まいしん	邁進	「突進, 突き進む」が適当
ふんいき			まぎわ	間際	出発間際
【へ】			まくら	※枕	※枕元, 枕詞
ヘイ	※蔽	※隠蔽	まことに	誠に	誠に重要な問題である
ヘイ	※餅	※煎餅	まさに	正に	正に指摘のとおりである
ページ	ページ	△頁	まさる	勝る	△優る
ヘキ	※壁	※完璧, 双壁	まじめ	※真面目	*「まじめ」も可
べき	べき	△可き	まず	まず	△先ず
		そうすべきである	ますます	ますます	△益々
へきち	へき地	△僻地			ますます増加する
へた	下手		また	又	又の機会, 又聞き
ベツ	※蔑	※軽蔑, 侮蔑	また(接続詞)	また	また, ～
べんたつ	べんたつ	△鞭撻			※(a若しくはb)又はc
		「激励, 励ます」が適当	また	※股	※大股, 内股
【ほ】			まちがい	間違い	
ホ	※哺	※哺乳類	まちがう	間違う	
ハウ	※蜂	※養蜂家, 蜂起	まっさき	真っ先	真っ赤, 真っ青
ほう	方	先方, 方針	まったく	全く	
		君の方	まっとうする	全うする	
ボウ	※貌	※変貌, 美貌	まで	まで	△迄
ぼうだい	膨大	△厖大			○日まで
ほうる	※放る		まね	まね	△真似
ほお・ほほ	※頬	※頬, 頬張る	まもなく	間もなく	
ほか	※他	他の意見			

まれ	まれ	△希, 稀	【め】	めあて	めあて	△目当て
まゆ	※眉	世にもまれな話	メイ・ミョウ	※冥	※冥福, 冥利	
まわり	回り	△廻り	めいめい	めいめい	めいめいに分ける	
		身の回り, 胴回り	めいりょう	※明瞭		
		回る, 回す	めがね	眼鏡		
	周り	池の周り	めざす	目指す	△目ざす	
		周りの人	めった	めった	△滅多	
まんなか	真ん中				めったやたらに	
【み】			めでたい	めでたい	△目出度い	
み(接尾語)	～み	△～味	メン	※麵	※麵類	
		弱み, 有り難み	めんどう	面倒	御面倒をお掛けします	
みいだす	見いだす	△見出す	【も】			
みきわめる	見極める		もうしあげる	申し上げる		
みごと	見事	△美事	もうしあわせ	申合せ	申合せ事項	
みぞう	※未曾有	「かつてない, 空前の, 初めての」 が適当		申し合わせる		
みたす	満たす	△充たす	もうしこむ	申し込む	申込書	
みだらだ	※淫らだ		もうしこみ	申込み		
みだりに	みだりに	△妄に	もうしわけ	申し訳		
みち	道	△路, 径, 途	もうでる	※詣でる	※初詣	
ミツ	※蜜	※蜜月	もうら	網羅		
みっか	3日		もくと	目途	年末完成を目途とする	
みつける	見付ける		もくろみ	もくろみ	△目論見	
みなす	みなす	△見なす	もし	もし	△若し	
みにくい	見にくい	△身につける	もしくは(接続詞)	若しくは	(a若しくはb)又はc	
みにつける	身に付ける	△見難い	もたらす	もたらす		
みのがす	見逃す	△観る, 看る, 視る	もち	※餅	※鏡餅	
みる	見る	△観る, 看る, 視る	もちろん	もちろん	△勿論	
		遠くの景色を見る	もつ	もつ	意欲をもつ	
	～(て)みる	面倒を見る	もって	持つ	(物を手に)持つ	
		見てみる		もって	△以って	
【む】			もつとも	最も	～をもって	
むさぼる	※貪る			もつとも	最も大切	
むしろ	むしろ	むしろの方が便利だ			もつともな御意見です	
むずかしい	難しい		もつぱら	専ら	専ら仕事に力を入れる	
むぞうさ	無造作	無造作に描く	もてあそぶ	※弄ぶ		
むだ	無駄	無駄話	もと	下	法の下に平等	
むなしい	むなしい	△空しい, 虚しい			一撃の下に倒した	
むね	旨	その旨, 了解されたい		元	火の元, 出版元	
むやみ	むやみ	△無闇, 無暗		本	本を正す	
		むやみに言い触らす		基	資料を基にする	
むろん	無論	無論正しい			基づく	

もの	～もの	正しいものと認める	【よ】		
	物(物体として存在する物)	物を大切に扱う	よい	よい	よいところ
	者(人間)	18歳未満の者		～(て)よい	連絡してよい
もより	最寄り			グラフのよさ	
もらう	もらう	△貰う		よくできる	
		～してもらう		善い	善い行い
もらす	漏らす		ヨウ	※妖	※妖怪, 妖艶
もろもろ	もろもろ	△諸々	ヨウ	※瘍	※腫瘍, 潰瘍
【や】			ヨク	※沃	※肥沃
ヤ	※冶	※陶冶, 鍛冶(ガヅ)	よけい	余計	費用が余計にかかる
ヤ	※弥	※弥生	よごれる	汚れる	
やかた	※館		よほど	よほど	△余程
やかましい	やかましい	△喧しい	よりどころ	よりどころ	△拠所
やくわり	役割		よる	よる	△依る, 因る
やさしい	易しい	易しい問題			これによってよい
	優しい	優しい心遣い	よろしく	よろしく	△宜しく
やすい	安い		【ら】		
	～やすい	△易い	ら	～ら	△～等
		読みやすい			これら, 我ら
やせる	※痩せる		ラ	※拉	※拉致
やっかい	厄介		ラツ	※辣	※辣腕, 辛辣
やみ	※闇	※闇夜, 暗闇	ラン	※藍	※出藍, 藍染め
やむをえず	やむを得ず		【り】		
やわらかい	柔らかい	柔らかな毛布	リ	※璃	※浄瑠璃, 瑠璃色
		物柔らかな態度	りきむ	※力む	
	軟らかい	表情が軟らかい	リツ	※慄	※慄然, 戰慄
		軟らかな土	りっぱ	立派	
やわらぐ	和らぐ	気持ちが和らぐ	リョ	※侶	※僧侶, 伴侶
【ゆ】			リョウ	※瞭	※明瞭
ユ	※喩	※比喻	【る】		
ゆいしょ	由緒		ル	※璃	※浄瑠璃, 瑠璃色
ユウ	※湧	※湧出, 湧水	るす	留守	
ゆうゆう	悠々	悠々自適	【れ】		
ゆえ	故	故あって, 故なく	れんが	れんが	△煉瓦
	～ゆえ	一部の反対のゆえにはかどらない	【ろ】		
		それゆえ	ロ	※呂	※風呂
ゆえに(接続詞)	ゆえに	ゆえに, ～	ロ	※賂	※賄賂
		△故に	ロウ	※弄	※愚弄, 翻弄
ゆがむ	ゆがむ	△歪む	ロウ	※籠	※籠城
ゆくえ	行方	行方不明	ロク	※麓	※山麓
ゆだねる	※委ねる		【わ】		
ゆるむ	緩む	緩やかだ	わが	我が	我が国, 我が家

わかる	分かる	△解る, 判る 気持ちが分かる
わく	※湧く	
わき	※脇	※脇腹, 両脇
わずか	※僅か	※僅差
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす 胸を患う
	患う	
わたくし	私	
わたし	※私	
わたる	渡る	橋を渡る
	わたる	2行にわたる 細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々, 我ら

【参考】公用文における漢字使用等について

(文化審議会国語分科会作成)から抜粋

1 次のような代名詞は原則として漢字で書く。

(例) 俺, 彼, 誰, 何, 僕, 私, 我々

2 次のような副詞及び連体詞は, 原則として漢字で書く。

(例) 副詞

余り, 至って, 大いに, 恐らく, 概して, 必ず, 必ずしも, 辛うじて, 極めて, 殊に, 更に, 実に, 少なくとも, 少し, 既に, 全て, 切に, 大して, 絶えず, 互いに, 直ちに, 例えば, 次いで, 努めて, 常に, 特に, 突然, 初めて, 果たして, 甚だ, 再び, 全く, 無論, 最も, 専ら, 僅か, 割に

(例) 連体詞

明るく, 大きな, 来る, 去る, 小さな, 我が(国)

ただし, 次のような副詞は原則として仮名で書く。

(例) かなり, ふと, やはり, よほど

3 次の接頭語は, その接頭語が付く語を漢字で書く場合は, 原則として, 漢字で書き, その接頭語が付く語を仮名で書く場合は, 原則として, 仮名で書く。

(例) 御案内(御+案内), 御挨拶(御+挨拶)

ごもつとも(ご+もつとも)

4 次のような接尾語は, 原則として仮名で書く。

(例) げ(惜しげもなく), ども(私ども), ぶる(偉ぶる), み(弱み), め(少なめ)

5 次のような接続詞は, 原則として, 仮名で書く。

(例)

おって, かつ, したがって, ただし, ついては, ところが, ところで, また, ゆえに

ただし, 次の4語は, 原則として漢字で書く。

及び, 並びに, 又は, 若しくは